エコしよう eco一do！（エコドゥ） 2019. 6. 20号

「Ｅｃｏ列車でいこう！」～第 120 回～アメリカ。エコじゃないドライブ

（ＣＯ２排出量の少ない交通機関での旅行を応援していくコーナーです！）

ゴールデンウィークの１０連休を利用した「アメリカドライブ旅行」。モニュメントバレーを離れて、４日目はグランドキャニオンを目指す。

見渡す限りの大平原。田舎道の快適なドライブの途中、ハンバーガーの昼食。日本の１．５倍くらいあり食べ応えがある。ふもとの町「キャメロン」から、「阿蘇」を思い起こすような丘陵を３０分ほど走ると、「グランドキャニオン国立公園」のゲートがあった。入場料はクルマ１台につき３０ドル。７日間有効である。

前日のモニュメントバレーは田舎の雰囲気が漂っていたが、ここは世界に名の知れた大観光。ビジターセンターもトイレも清潔に整備されている。例えるなら「軽井沢」のようだ。

さて、グランドキャニオンの楽しみ方は２つ。一つは「横に移動」して楽しむ。深い峡谷をいろいろな絶景ポイントから眺める。もう一つは「縦に移動」して楽しむ。「登山」ならぬ「下山」をして下から峡谷を見上げる方法だ。

ロッジにチェックインした後、無料バスで夕日が名高い「ホピポイント」へ移動。とっぷりと暮れていくオレンジ色の世界を楽しんだ。夕食はロッジのレストランでピザとビールにした。

５日目は日の出を拝んだあとに、「下山」して渓谷美を堪能した。途中ラバの一団とすれ違ったりして楽しい。ドンドン下って行きかけたが、「登山」の逆なので、帰りがしんどくならないように３０分くらいで切り上げた。

グランドキャニオンを離れ、ハイウェイ４０号線を西海岸に向けて走り、「キングマン」でメキシコ料理の昼食。「パン」代わりに「トルティア（とうもろこし）チップス」、メインは豆の煮込み料理だ。この町でハイウェイを離脱して「国道６６号線（ルート６６）」に入る。1930年代以降、西海岸へのメインルートだったこの道は、多くのトラックや観光客のクルマで賑わい、「ナット・キング・コール」らが同名の曲を歌い、人気を博した。

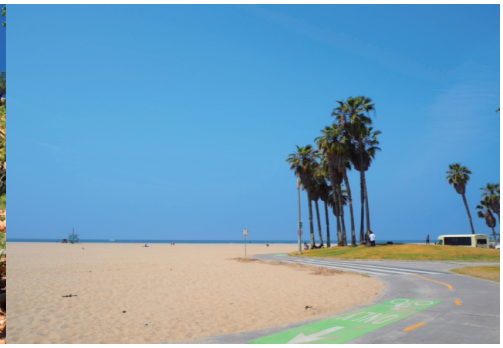
ハイウェイの建設により、廃れていった道であるが、今でも人気のドライブルートである。途中の「オートマン」は昔の鉱山町。ロバが放し飼いにされており、人懐っこい。けだるい昼下り。「古き良きアメリカ」を感じた。

１５時過ぎ、ハバス湖岸にある「レイクハバスシティ」着。童謡で有名な「ロンドン橋」が移築されたこの街のリゾートホテルにチェックインし、プールでリラックスする。今朝のグランドキャニオンは０℃。ここは３０℃と温度差が激しい。そろそろ日本料理を欲するが、この日の夕食もビールとステーキにした。「地ビール６種のみ比べ」というメニューを選び、大いにのどを潤し、夜のジャグジーにも入り、ぐっすりと眠りについた。

６日目、ハイウェイ４０号線で最後の目的地「ロサンゼルス」へ。近郊まで来ると大渋滞になった。映画「ラ・ラ・ランド」のオープニングは渋滞から始まるが、もちろん、あんなに清々しいものではない。グーグルマップのナビに導かれて「ビバリーヒルズ」「ハリウッド」を巡り、アカデミー賞授賞式の「ドルビーシアター」や有名人の手形などを見る。４日間も田舎ドライブをしてきたので、都会の道はストレスが溜まった。

７日目。ロサンゼルス郊外の「サンタモニカ」へ向かう。太平洋を眺め、ファーマーズマーケットを見学し、ボリューム満点のピザセットを食べた後、少し走って若者が集う「ヴェニスビーチ」へ。電動キックスケーター「bird」を借り、海風を切って、存分に西海岸のビーチを楽しんだ。

ホテル近くのコイン洗車で、この旅の相棒「RAV4」をきれいに洗ってあげて、日本人向けスーパーマーケットでお弁当や漬物を買って、焚火が燃える、ホテルの中庭で「さよならパーティー」とした。

最終日、レンタカーセンターでクルマを返却し、アメリカン航空機で帰国の途に着いた。

天気も良く、大きなトラブルもなく、素晴らしい経験が出来た。少し勇気がいるかもしれないが、みなさんも「アメリカドライブ」　に出かけてみたらいかがだろうか。きっと一生の思い出になることだろう。